関東中学生オープンバドミントン大会
開催20周年記念

次の世代へ　受け継ぐべきもの

関東中学校体育連盟バドミントン専門部

委員長　　小　野　　理

昭和５９年１２月に筑波大学で開催された第１回関東中学生合宿。関東オープン大会の前身の強化事業であり、私はまだ教員３年目でバドミントン指導歴も皆無に等しい時でした。そんな折、この合宿に参加したことが新たな世界を知り、宿命ともいえる「バドミントン」に我が身を投じることになったのです。都県持ち回りでこの関東中学生合宿を開催し、ナショナルチームの監督や有名選手の講義や実技指導が行われました。この斬新で画期的な合宿も、時代の移り変わりの中で平成８年度より大会形式に変更し、さらなる強化施策につなげることにもなります。関東オープン大会の最大の特徴は、関東ブロック以外からも有力チームを招聘し、共に切磋琢磨していこうという点です。また、第１回大会より水鳥球を使用したことも大きな意義がありました。当時の中学生はナイロンシャトルを使用しており、様々な面で不合理が出ており、水鳥球導入についての賛否が真っ盛りでした。全国大会は平成１２年より水鳥球に変わりましたが、関東ブロックではこの関東オープン大会でいち早く水鳥球を使い、全国をリードしました。しかしながら、大半の方はブロック外チームの招聘や水鳥球の導入へ反対であり、私自身が困惑することも度々ありました。「時代を先取りする者には逆風が吹く。」これはいつの時代も同様であり、逆風をはね返す不屈の精神を次の世代のリーダー達にも受け継いでいただきたいことです。

関東合宿や関東オープン大会の３２年にわたる開催は、中学生の競技レベルを飛躍的に引き上げることになりました。近年の国際大会での日本選手の活躍の一助にもつながっているはずです。２０２０年に東京オリンピックが開催されますが、これを機に、海外チームを関東オープン大会に招待するなど、国際的な取り組みをしてみるのも新たな時代の強化策と考えます。「関東中学から世界へ発信する。」そんな夢の実現を次の世代の皆さんに託したいと思います。

栄光の記録

回	年．月	開催地	男子			女子		
			１　位	２　　位	３　　位	１　位	２　　位	３　　位
1	Ｈ９．１	千葉県野田市	東京都	岡山県	栃木県	滋賀県	埼玉県	東京都
2	Ｈ１０.１	山梨県甲府市	岡山県	栃木県	石川県	埼玉県	東京都	岡山県
3	Ｈ１１.１	群馬県太田市	埼玉県	茨城県	千葉県	埼玉県	石川県	東京都
4	Ｈ１２.１	埼玉県上尾市	熊本県	栃木県	岡山県	熊本県	千葉県	岡山県
5	Ｈ１３.１	茨城県石岡市	埼玉県	栃木県	熊本県	熊本県	栃木県	群馬県
6	Ｈ１４.１	神奈川県海老名市	岡山県	栃木県	神奈川県Ａ	埼玉県	宮城県	東京都
7	Ｈ１５.１	東京都立川市	福井県	東京都Ａ	埼玉県	東京都Ａ	埼玉県	東京都Ｂ
8	Ｈ１６.１	千葉県千葉市	埼玉県	茨城県	福井県	愛知県	熊本県	埼玉県
9	Ｈ１７.１	栃木県宇都宮市	埼玉県	栃木県Ａ	東京都	埼玉県	東京都	熊本県
10	Ｈ１８.１	山梨県甲府市	埼玉県	栃木県	熊本県	埼玉県	千葉県	群馬県
11	Ｈ１９.１	埼玉県桶川市	埼玉県Ａ	福井県	埼玉県Ｂ	熊本県	埼玉県Ａ	福井県
12	Ｈ２０.１	群馬県太田市	埼玉県	福井県	茨城県	埼玉県	熊本県	千葉県
13	Ｈ２１.１	神奈川県川崎市	埼玉県	群馬県	茨城県	千葉県	埼玉県	岡山県
14	Ｈ２２.１	茨城県鹿島市	東京都	群馬県	熊本県	埼玉県	岡山県	熊本県
15	Ｈ２３.１	東京都葛飾区	熊本県	福井県	東京都A	埼玉県	熊本県	東京都A
16	Ｈ２３．１２	栃木県小山市	埼玉県	東京都	山梨県	埼玉県	福井県	東京都
17	Ｈ２４．１２	千葉県浦安市	埼玉県	岡山県	熊本県	埼玉県	千葉県Ａ	東京都
18	Ｈ２５．１２	群馬県前橋市	東京都	茨城県	埼玉県	埼玉県	熊本県	福井県
19	Ｈ２６．１２	山梨県甲府市	埼玉県	岡山県	熊本県	埼玉県	岡山県	茨城県

大会へ参加して

第１回関東中学生オープン大会に参加して

第１回優勝　東京都ﾁｰﾑ　選手

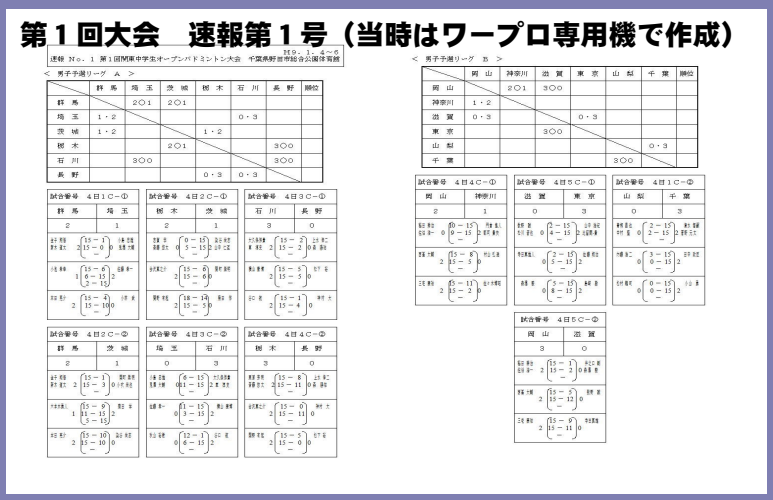
山中　浩紀

関東中学生オープンバドミントン大会は、将来日本を代表して世界で活躍する選手が競い合うレベルの高い大会です。２０年前の第１回大会に、後にオリンピックに出場し、現在ではナショナルチームのコーチを務めている佐藤翔治君や強力なチームメンバーとともに出場し優勝した大変印象深い大会です。個人的には負けた試合もあり反省点の多い大会でしたが、この大会での勝利が非常に大きな自信となり、私自身、後の関東大会、全国大会、また高校でのインターハイ出場につながりました。

誤解を恐れずに言えば、関東オープン大会は通過点だと思います。これで終わる大会ではありません。しかしこれ以上ない切磋琢磨のチャンスです。出場される選手の皆さんは、ぜひ本気で一つ一つの試合に臨んでください。自分で本気で考えて行動することが次への成長につながると思います。

２０年後も自然と思い出されるような印象に残る試合が数多く繰り広げられることを期待しています。

第１回大会　速報第１号（当時はワープロ専用機で作成）



速報 No. 1 第1回関東中学生オープンバドミントン大会　千葉県野田市総合公園体育館

＜ 男子予選リーグ　A ＞

	群馬	埼玉	茨城	栃木	石川	長野	順位
群馬		2○1	2○1				
埼玉	1・2				0・3		
茨城	1・2			1・2			
栃木			2○1			3○0	
石川		3○0				3○0	
長野				0・3	0・3		

試合番号　4日1C－①

群馬	埼玉
2	1

試合番号　4日2C－①

栃木	茨城
2	1

試合番号　4日3C－①

石川	長野
3	0

試合番号　4日2C－②

群馬	茨城
2	1

試合番号　4日3C－②

埼玉	石川
0	3

試合番号　4日4C－②

栃木	長野
3	0

＜ 男子予選リーグ　B ＞

	岡山	神奈川	滋賀	東京	山梨	千葉	順位
岡山		2○1	3○0				
神奈川	1・2						
滋賀	0・3			0・3			
東京			3○0				
山梨						0・3	
千葉					3○0		

試合番号　4日4C－①

岡山	神奈川
2	1

試合番号　4日5C－①

滋賀	東京
0	3

試合番号　4日1C－②

山梨	千葉
0	3

試合番号　4日5C－②

岡山	滋賀
3	0

関東以外からの参加

岡山県、熊本県、福井県、石川県、長野県、滋賀県

宮城県、北海道、愛知県、岐阜県

関東以外から

最多１８回、参加して…感謝！！

岡山県中学校体育連盟バドミントン専門部

前　委員長　　中須賀　祥雅

「中国では勝っても、全国では勝てない岡山県」以前はそんな時代でした。クラブチームの指導者からも「小学生は全国で勝つのに、中学生（中体連）は勝てんなぁ～」という厳しい言葉をかけられていました。この現状を打破し、競技力を強化していくためには県外遠征で経験を積み、結果を残すことで全国の強豪チームの「仲間」に入れてもらえるようにならないと、という「想い」を強く持ちました。

小野理先生から関東中学生選手強化会を大会形式の都県対抗戦に移行するので、関東以外から３～４チームの参加を募りたいというお話を聞き「ぜひ参加させてください」と、いの一番にお願いしたのを覚えています。　強豪チームと戦うことで、フィジカル面やメンタル面が鍛えられ、トップ選手の雰囲気を肌で感じることができます。また、バドミントンを通した多くの人との出会いが私自身を育て、成長させてくれています。

本当に心より感謝申し上げます。これからも“岡山”よろしくお願いいたします。

全国・世界へ羽ばたいた代表的な選手

H27.10.1現在のナショナルチーム

（コーチ）	佐藤　翔治	第1回大会優勝（東京都チ-ム）
（A代表）	遠藤　大由	第5回大会優勝（埼玉県チ-ム）
	上田　拓馬	第7回大会3位（埼玉県チ-ム）
	山口　　茜	第27・28回大会出場（福井県チ-ム）
（B代表）	井上　拓斗	第12・13回大会優勝（埼玉県チ-ム）
	金子　祐樹	第12・13回大会優勝（埼玉県チ-ム）
	内藤　真実	第4・5回大会出場（神奈川県チ-ム）
	田中　志穂	第10回大会出場・第11回大会優勝（熊本県チ-ム）
	福島　由紀	第12回大会準優勝（熊本県チ-ム）
	廣田　彩花	第13回大会出場（熊本県チ-ム）

メッセージ

日本ユニシス株式会社　　上 田　拓 馬

関東中学生バドミントンオープン大会開催20周年おめでとうございます。

私が最後にこの大会に出場してからもう10年以上経ちますが、現在もこうして大会が開催されていることを嬉しく思います。

中学生の頃の私は、1人の選手をずっと目標に日々の練習に励んでいました。少しでもその選手に追いつきたいという気持ちが、私自身を強くしてくれました。

その頃の自分がいたからこそ、私は日本代表に選ばれることができたし、トマス杯という大きな舞台でもチームの優勝に貢献することができました。

今後は、小さい頃からの夢であったオリンピックに向けて、頑張っていきます。

選手の皆さんには、この大会を通じて様々なことを学び、今後の成長の糧にしてほしいです。そして将来的には、バドミントン界を背負って立つ選手に成長してくれることを願っています。

優勝旗

関東中学生オープンバドミントン大会開催２０周年を記念し、この度、写真のような優勝旗を新調いたしました。

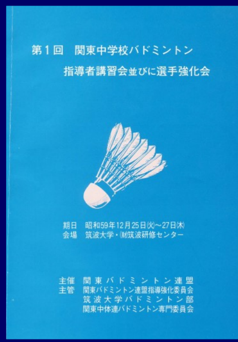
大会の前身＝関東合宿

関東中体連バドミントン専門部

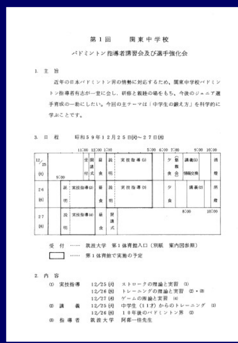
元　委員長　　　　加藤　勝

昭和５１年（１９７６年）文部省の指導により、部活動が教育内活動として位置づけられました。先行的試行として、関東地区での中学校大会は、全国に先駆け学校対抗戦と個人対抗戦が発足、実施されました。大会内容としては隣接都県７２時間以内の開催でした。

その後、昭和５５年（１９８０年）第１０回全国中学校選抜大会から、他競技も学校対抗戦に変わりました。バドミントン競技では現行９ブロック選抜形式の学校対抗団体戦と個人戦に落ち着き、その後やや定数を増やし、現在に至る形式で実施されて居ます。



関東地区では、全国より５年早く、学校対抗を意識した部活動が実施された影響から全国中学校大会でも、埼玉県、栃木県、茨城県などの有力校が上位入賞を続けることが出来ました。しかし、関東大会が各都県輪番制になり、開催が困難な状況がありました。今までの都県協会主導から中体連による主催・主管開催が実施できない県もあり、中体連組織も各県に設置し、関東中体連の結束を高める必要に迫られました。



関東中学校大会の初開催と同様に、神沢暁氏（群馬県）、遠井稔男氏（栃木県）池田昌道氏（東京都）等のご支援を得、昭和５９年（１９８４年）第１回関東中学校指導者講習会並びに選手強化会を関東連盟主催で実施することができました。関東各都県の中体連組織の充実のため各委員長が率先して若い指導者を参加させる盛り上げが見られました。１２月末の極寒の中、筑波大学で実技指導も開催、熱心に討議を重ねることが出来ました。第２回は群馬県で開催され、各都県委員長、副委員長が次年度の関東大会開催の準備状況を報告する内容も盛り込まれ充実した会となりました。その後、１０年余りに渡り継続され保持できたことは関東ばかりで無く、日本バドミントン界に大きな貢献を果たしたと思います。

関東合宿から大会へ

関東中学生オープンバドミントン大会は、毎年冬に行われていた「関東中学生強化練習会・指導者講習会」がその前身であります。加藤勝先生（当時　全国・関東・埼玉県委員長）、小島一夫先生（当時　茨城県委員長）、佐伯一之先生（当時　栃木県委員長）が中心となり、昭和５９年１２月、茨城県つくば市筑波大学に関東１都７県の中学生選手と指導者が集合し、阿部一佳先生の下、筑波大学バドミントン部員のご指導を受けたのが、この会の始まりでした。その後、群馬県や埼玉県でこの関東中学生合宿が催されていましたが、昭和から平成の時代の幕開けとともに、関東大会が開催される前年度にその担当都県で開催する、持ち回りの会となりました。選手の強化だけでなく、指導者育成にも力が入れられ、我が国を代表する選手や有名指導者を招聘し、ご指導をいただきました。このような会の取り組みは、関東地区の中体連バドミントン専門部に影響を与え、各都県独自に練習会や合宿を開いていくこととなり、選手や指導者のレベル向上に果たした役割は大きなものがありました。

その後、平成９年からは「関東中学生オープンバドミントン大会」に移行し、第１回は千葉県野田市で開催されました。優勝カップは野田市にある「キッコーマン株式会社」から寄贈していただいたものです。また大会の、「オープン」の名称は関東地区に限定せず、全国から参加チームを募るという意味合いでした。大会の試合形式も当初の目的である選手強化につながるよう、多く試合が展開できるような工夫がなされ、今では、この大会を制するものが、夏の関東、そして全国を制するまでになっています。

発行　　　　　平成２７年１２月

関東中学生オープンバドミントン大会

開催２０周年記念事業実行委員会